

「全鍍連」 2016年 6月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 奥田 昌幸（清水長金属工業(株) 代表取締役社長）

「京都府鍍金工業組合 広報誌『仲間』について」



今回、全鍍連誌に寄稿せよとの事で、当組合が年2回（8月・1月）に発行している組合報「仲間」について、一部ご紹介させていただきます。

この組合報は、当組合内の情報・国際委員会のメンバーと組合事務局の職員2名で、企画から寄稿の依頼、原稿の作成、編集から校正と、すべて手作りで発行しております。今回は広報誌の中のメイン企画インタビュー記事についての苦労話をご披露させていただきます。

広報誌の企画のなかで、“京も 京都で 京の人（きょうも きょうとて きょうのひと）”と題し、地元京都で活躍されている異業種の女性で、オーナーもしくはそれに準じる人、または個人で仕事をされている方を限定し、対談記事を掲載しております。

その対談のなかで、業界のお話や経営者としての苦労話、楽しかった話や業界の将来等々、お話しいただいております。お互い今まで知らなかった世界が垣間見られ、興味深く聞かせていただく事が多くあります。

この企画は、平成17年1月号から始まり、今年の1月号で22回・22人にお会いしました。対談したお相手は、上述したように様々な職種にわたり、華道の家元、料理旅館の若女将、保険代理店の社長、劇団のリーダー、マジックバーのオーナー、フリーアナウンサー、銀行の支店長、老舗京銘菓社長令嬢、京友禅染色家、陶磁器家、出版社社長、生花店オーナー等々と、今まで同じ業界に偏らず、異業種のなかでご登場願いました。

毎回インタビューは、京都の料理屋さんの一室を借り、会食を含めて3時間から長い時は4時間かかる場合もありました。最初の1時間はインタビュー時間とし、その後は会食をしながらリラックスしていただいております。

お酒も入り、和気あいあいと話も進んで行くのですが、そうするとオフレコの話が多くなり、広報誌にご紹介したいような話もありましたが、なかなか活字にし切れなく、非常に残念な思いが多々ありました。

活字にする編集作業も、インタビューの間に録音して、それを基に活字に変換していくのですが、インタビューする側も素人なので、話が色々飛び交って、纏める時、大変な時間が掛かっているものと思います。幸いにして、活字編集できる纏め役が、当委員会メンバーの中で、ベテランがいますので、いつも簡単？に原稿に変換してもらっております。

この場をお借りして普段の任せきりについてお詫び申し上げます。なにしろ素人の集まりで全員の力を結集して何とか発行に至っている状態です。

最後になりましたが、最近是对談者の人選がなかなか見つからず苦労しています。委員会のメンバーが色々手を尽くして探してくるのですが、女性というくりにあるため、大変難儀致しております。

また、インタビュー、対談の最後には、必ず「めっき」というキーワード、そして「めっき」について、どの様なイメージをお持ちかどうか伺っております。

お相手が存じ上げていない場合については、対談を通じて、正しいめっきの知識を持っていただくようにしています。

さらに、広報誌には、一般の人にも「めっき」がいかに色々な業界で役立っているのか、また必要とされているのか等を知っていただくようPRに務めています。そして、めっき専従者の日々の努力の一端でも知って頂けるよう頑張っております。

未筆になりますが、どこかで当組合の広報誌にお目に留まれば、一度見て頂ければ幸いです。

(清水長金属工業株式会社代表取締役社長)

